

EPSON

2024年度(2025年3月期) 第2四半期 決算説明会

2024年 11月 1日
セイコーエプソン株式会社

- Q2実績
 - 対前年同期 小幅な増収、事業利益は大幅な増益
 - ✓ プリンティングソリューションズの販売が伸長
 - ✓ 在庫変動に伴う利益へのマイナス影響があった前年同期に対して、事業利益は増益
 - 対社内計画 売上収益は計画並み、事業利益は計画を大幅に上回る
 - ✓ プロジェクターの販売が低調だったものの、オフィス・ホームプリンティングのインク販売が堅調、大容量インクタンクモデル本体の販売価格が想定よりも高値で推移
 - ✓ 各事業での費用抑制が進む
- 2024年度通期業績予想(対7/31前回予想) 事業利益は前回予想値を据え置き
 - 厳しい経済環境が継続
 - プロジェクターの需要悪化に加え、SOHO・ホームIJP本体の販売価格対応のリスクを織り込む
 - 各事業で費用抑制を継続
- Fiery, LLC買収
 - 商業・産業印刷市場のデジタル化加速に向けてシナジー効果を創出
*今回の業績予想にはFiery買収影響は含まない。

➤ 本日のご説明のポイントはご覧のとおりです。

- 第2四半期は、
プリンティングソリューションズの販売が伸長し増収となりました。
- 事業利益は、在庫変動に伴う利益へのマイナス影響があった前年同期に対して、大幅な増益となりました。
- なお、社内計画に対しては、売上収益は計画並みとなりましたが、各事業での費用抑制が進んだことなどにより、事業利益は計画を大幅に上回りました。
- 通期業績予想は、プロジェクターの需要悪化に加え、
厳しい経済環境が継続するという前提に立ち、SOHO・ホームIJP本体の
販売価格対応などのリスクを織り込みますが、各事業で費用抑制を継続する
ことで、事業利益は前回予想値を据え置きます。
- また、9月に発表したFiery買収の狙いや効果については、
後ほどご説明します。
- なお、クローリングに向けた手続きが進行中であるため、今回の業績予想
にはFieryの買収影響は含みません。

- 第2四半期実績
- 2024年度通期業績予想・株主還元
- Fiery買収

	2023年度		2024年度		対前年同期	
	Q2実績	%	Q2実績	%	増減額	増減率
(億円)						
売上収益	3,236		3,375		+138	+4.3%
事業利益	88	2.7%	275	8.2%	+187	+211.9%
営業利益	82	2.5%	124	3.7%	+42	+51.7%
税引前利益	100	3.1%	59	1.8%	-41	-40.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	72	2.3%	41	1.2%	-31	-43.5%
EPS*1 (円)	21.99		12.50			
為替レート (円、指数)	USD	¥144.47	¥149.23			
	EUR	¥157.20	¥163.86			
	その他通貨*2	100	101			

- 営業利益
 - ・その他の営業費用に円高進行による為替差損を計上
- 税引前利益
 - ・金融費用に円高進行による為替差損を計上

為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	総計
売上収益	+33	+22	+5	+61
事業利益	-12	+14	+3	+5

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨について、当期と前期レートでの円換算合計金額を比較し、前期を100として指数で表示

➤ 第2四半期の実績をご説明します。

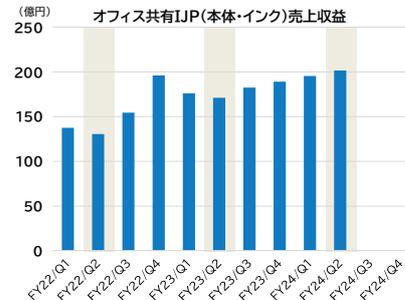
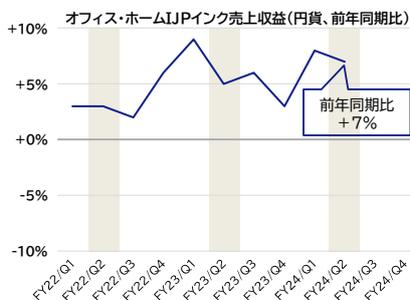
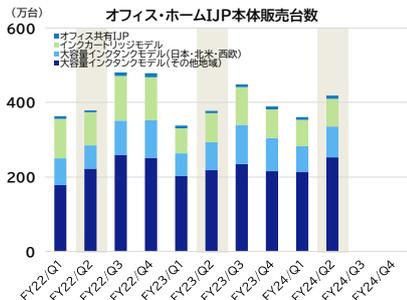
- 売上収益は、為替変動によるプラス影響もあり、前年同期に対して138億円増収の3,375億円となりました。
- 事業利益は、在庫変動に伴う利益へのマイナス影響があった前年同期に対して、187億円増益の275億円となりました。
- また、急激な円高進行による為替差損などを計上したことにより、営業利益は124億円、税引前利益は59億円となりました。
- これらの結果、四半期利益は41億円となりました。
- 前回予想の前提となる社内計画に対しては、セグメントごとに濃淡はあるものの、売上収益は計画並みとなりました。
- 事業利益は、各事業で費用抑制が進んだことなどにより、計画を大幅に上回りました。
- 次のスライド以降で、各事業の計画差異についてもご説明します。

		(億円)			
プリンティングソリューションズ	2023年度 Q2実績	2024年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	2,221	2,406	+184	+40	+8.3%
セグメント利益	150	339	+188	+2	+125.5%
セグメント利益率	6.8%	14.1%			

		(億円)			
オフィス・ホームプリンティング	2023年度 Q2実績	2024年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	1,569	1,677	+107	+22	+6.9%
オフィス・ホームIJP(SOHO・ホームIJP) ¹⁾	1,221	1,310	+89		+7.3%
オフィス・ホームIJP(オフィス共有IJP) ²⁾	171	201	+30		+17.8%
その他 ³⁾	176	164	-11		-6.7%
事業利益	62	154	+91	-8	+146.9%
事業利益率	4.0%	9.2%			

- オフィス・ホームプリンティング
 - IJP本体売上は前年同期比で現地通貨ベース+9%、円貨+10%。販売数量は前年同期比+11%
 - IJPインク売上は、大容量インクボトル、オフィス共有IJPインクが増加し、前年同期比で現地通貨ベース+5%、円貨+7%
 - 増収影響に加え、輸送費の減少や在庫変動影響により増益

1)IJCモデル、大容量インクタンクモデル本体、インクなど 2)オフィス向けIJCモデル、RIPS-LIJ本体、インクなど 3)スキナー、SIDM、LP、脱式オフィス製紙機など

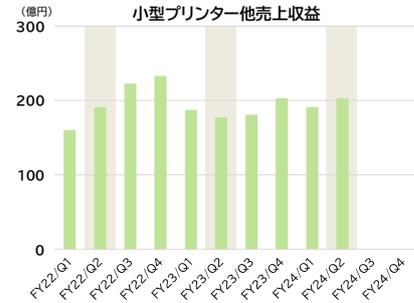
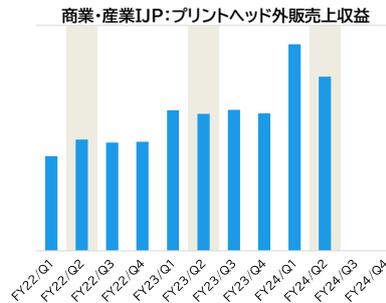
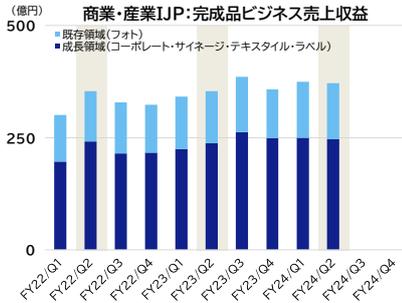


- ▶ プリンティングソリューションズの実績はご覧のとおりです。
- ▶ 売上収益は前年同期に対して184億円の増収となる2,406億円、セグメント利益は188億円増益の339億円となりました。
- ▶ オフィス・ホームプリンティングの売上収益は、1,677億円となりました。
- ▶ IJP本体は、大容量インクタンクモデルやオフィス共有IJPの販売数量を増加させ、増収となりました。
- ▶ IJPインクの売上は、本体の市場稼働台数増加に加え、一部チャネルでの買い込みなどもあり、大容量インクボトルとオフィス共有IJPインクが増加したことで、前年同期に対して7%の増収となりました。
- ▶ 事業利益は、これらの増収影響に加え、輸送費の減少や在庫変動影響により、大幅な増益となる154億円となりました。
- ▶ なお、社内計画に対しては、IJP本体の価格が北米を除いた多くの地域で上回ったことや、インクの販売が堅調に推移したことで、オフィス・ホームプリンティングの売上収益、事業利益ともに上回りました。

商業・産業プリンティング	(億円)		増減額	内為替 影響額	増減率
	2023年度 Q2実績	2024年度 Q2実績			
売上収益	652	729	+76	+18	+11.7%
商業・産業IJP	475	526	+51		+10.7%
小型プリンター他	177	203	+25		+14.4%
事業利益	87	184	+96	+11	+110.2%
事業利益率	13.4%	25.3%			

■ 商業・産業プリンティング

- 商業・産業IJP完成品は、本体は金利高により顧客の投資抑制の影響を受けたものの、インクの販売が堅調
- プrintヘッド外販は、輸出も手掛ける中国メーカーへの販売が好調
- 小型プリンター他は、小売業界や飲食業界などでの投資意欲が改善
- 増収影響に加え、当四半期は在庫変動による利益へのプラス影響などもあったことから、大幅な増益



© Seiko Epson Corporation 2024.

5

- 商業・産業プリンティングは、売上収益が 729億円、事業利益は 184億円となりました。
- 商業・産業IJPの完成品は、本体は金利高により顧客の投資抑制の影響を受けたものの、インクの販売が堅調だったことで、増収となりました。
- プrintヘッド外販は、中央のグラフの通り、プリンターメーカー各社の新製品立ち上げ時期が重なった第1四半期からは減収となったものの、前年同期に対しては旺盛な需要を捉え増収となりました。
- 小型プリンター他は、小売業界や飲食業界などでの投資意欲に改善が見られ、増収となりました。
- 商業・産業プリンティングの事業利益は、増収影響に加え、当四半期は在庫変動による利益へのプラス影響などもあったことから、大幅な増益となりました。
- なお、社内計画に対しては、売上収益は計画並みとなりましたが、費用抑制や在庫変動影響などにより、事業利益は上回りました。

ビジュアルコミュニケーション	2023年度 Q2実績	2024年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	573	523	-49	+13	-8.6%
セグメント利益	79	81	+2	+3	+3.7%
セグメント利益率	13.8%	15.6%			

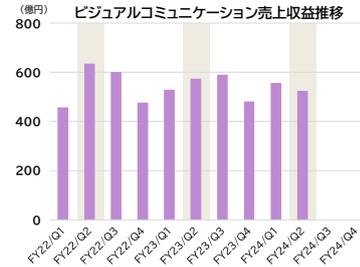
◆プロジェクト販売動向* (前年同期比増減率)	2023年度 Q2実績	2024年度 Q2実績
売上収益(円貨)	-10%	-8%
売上収益(現地通貨)	-15%	-10%
販売台数	-10%	-10%

* 社内管理簿に基づく指標
 増減率は前年同期比

マニュファクチャリング関連・ ウェアラブル	2023年度 Q2実績	2024年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	452	446	-6	+8	-1.4%
マニュファクチャリングソリューションズ	56	43	-12		-22.5%
ウェアラブル機器	91	97	+6		+7.1%
マイクロデバイス他	263	259	-3		-1.4%
PC	51	56	+5		+10.5%
事業間売上収益	-9	-11	-1		-
セグメント利益	10	-2	-12	-0	-
セグメント利益率	2.2%	-0.5%			

■ ビジュアルコミュニケーション

- 北米をはじめとした教育需要の停滞や、中国の景気停滞影響などでプロジェクトの販売数量が減少し減収
- セグメント利益は減収影響があったものの、当四半期は在庫変動による利益へのマイナス影響がないため、前年同期並み

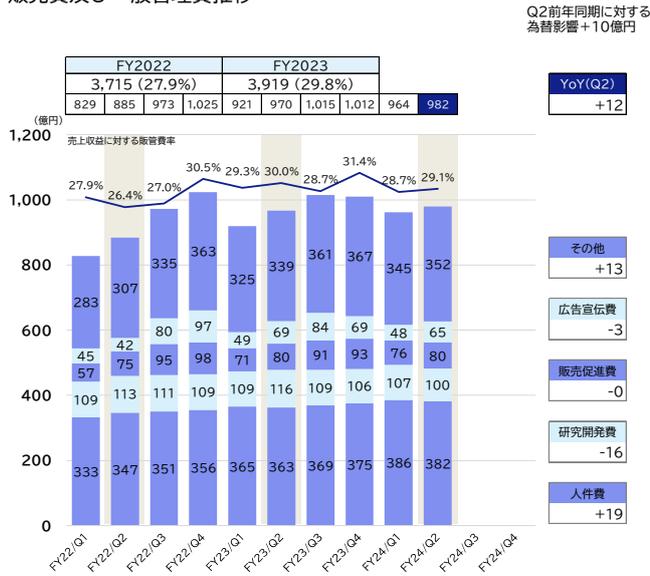


■ マニュファクチャリング関連・ウェアラブル

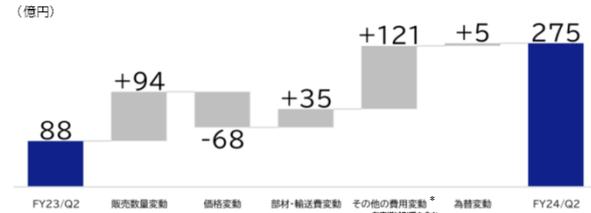
- マニュファクチャリングソリューションズは、スカロロボットが中国での景気停滞や欧米での金利高による投資抑制影響
- ウェアラブル機器は、インバウンド需要などにより増収
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスで民生向けの需要回復が見られたものの、半導体で産業向けを中心に需要が低調

- ▶ ビジュアルコミュニケーションは、北米をはじめとした教育需要の停滞や、中国の景気停滞影響などにより、プロジェクトの販売数量が減少し、売上収益は 49 億円減収の 523 億円となりました。
- ▶ セグメント利益は減収影響があったものの、当四半期は在庫変動による利益へのマイナス影響がないため、前年同期並みの 81 億円となりました。
- ▶ 社内計画に対しては、販売数量が想定に届かなかったことにより、売上収益、セグメント利益ともに、計画を下回りました。
- ▶ マニュファクチャリング関連・ウェアラブルの売上収益は、前年同期並みの 446 億円となりました。
- ▶ マニュファクチャリングソリューションズは、民生機器などの搬送や組立に用いるスカロロボットで、引き続き中国での景気停滞や欧米の金利高による投資抑制影響を受けています。
- ▶ ウェアラブル機器の売上収益は、インバウンド需要などにより増収となりました。
- ▶ マイクロデバイス他は、水晶デバイスがスマートフォンやPCなど民生向けで需要回復が見られたものの、半導体が産業向けを中心に需要が引き続き低調で、売上収益は前年同期並みとなりました。
- ▶ セグメント利益は、減収影響により 12 億円減益の 2 億円の損失となりました。
- ▶ なお、社内計画に対しては、売上収益、セグメント利益ともに概ね計画並みとなりました。

販売費及び一般管理費推移



事業利益の変動要因



数量変動

+ IJPインク、大容量インクタンクモデル本体、
商業・産業IJP完成品ビジネス、プリントヘッドなど
- プロジェクター、ロボットなど

価格変動

+ ウオッチなど
- オフィス・ホームIJP本体、プロジェクターなど

部材・輸送費変動

+ 主に海運運賃改定効果による輸送費の減少

その他の費用変動

+ 在庫変動に伴う利益へのマイナス影響があった前年同期に
対してプラス

- 販売費及び一般管理費推移は、左のグラフの通りです。
- 当四半期の販管比率は 29.1%となりました。
- 事業利益の変動要因を、右のグラフでご説明します。
- 数量は、IJPインクや大容量インクタンクモデル、商業・産業IJPなどでプラスとなりました。
- 価格は、オフィス・ホームIJP本体やプロジェクターなどでマイナスとなりました。
- 輸送費は、海運運賃改定効果による減少がありました。
- その他の費用変動では、在庫変動に伴う利益へのマイナス影響があった前年同期に対してプラスとなりました。

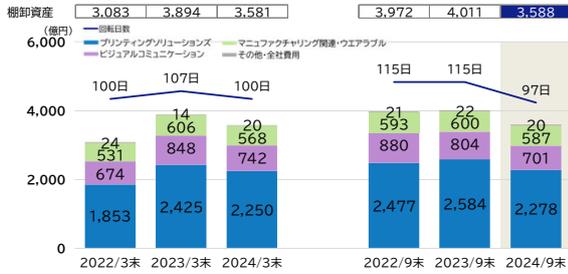
資産合計



有利子負債・有利子負債依存度



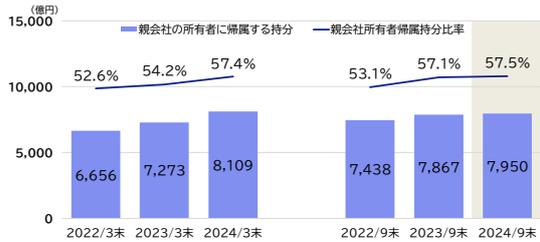
棚卸資産・回転日数



ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者持分比率



*回転日数(3月末)＝連結会計期間末棚卸資産残高/連結会計期間末直前12ヶ月間の1日当たり売上収益
 *回転日数(9月末)＝連結会計期間末棚卸資産残高/連結会計期間末直前6ヶ月間の1日当たり売上収益

- 財政状態計算書の主要項目は、ご覧のとおりです。
- 9月末の棚卸資産の回転日数は97日となりました。
- 引き続き、適正に在庫コントロールを継続していきます。

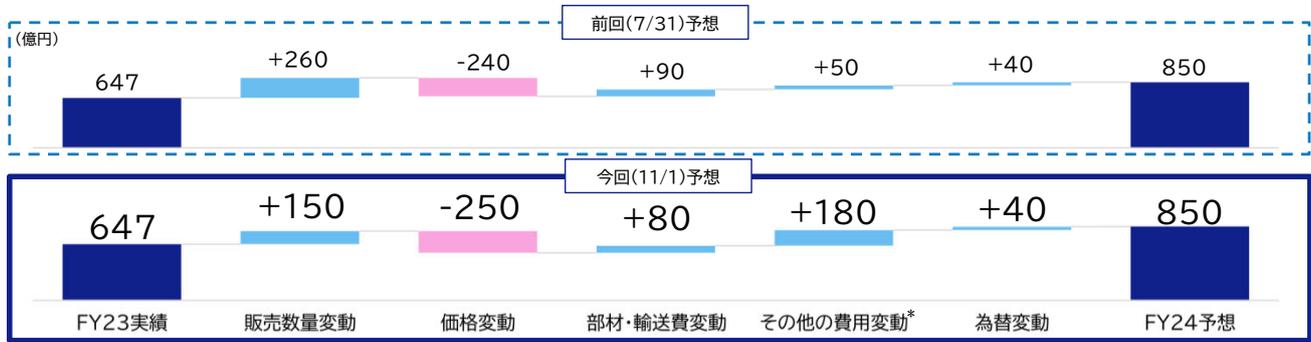
- 第2四半期実績
- 2024年度通期業績予想・株主還元
- Fiery買収

(億円)	2023年度		2024年度		増減額/増減率		*本業績予想にはFiery買収影響は含まない。				
	実績	%	7/31予想	%	対前期	対7/31予想					
売上収益	13,139		13,700		+260 +2.0%	-300 -2.2%	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■ 営業利益・税引前利益 ・為替差損益の予想を変更</p> </div>				
事業利益	647	4.9%	850	6.2%	+202 +31.3%	-					
営業利益	575	4.4%	770	5.6%	+104 +18.2%	-90 -11.7%					
税引前利益	700	5.3%	770	5.6%	-30 -4.4%	-100 -13.0%					
親会社の所有者に帰属する 当期利益	526	4.0%	540	3.9%	-56 -10.7%	-70 -13.0%					
EPS*1 (円)	158.68		162.83								
為替レート (円、指数)	USD	¥144.44	¥151.00		¥149.00		*1 EPS：基本的1株当たり当期利益 *2 その他通貨について、当期と前期レートでの円換算合計金額を比較し、前期を100として指数で表示 *3 USD/EURは1円の円高による年間影響額(億円)、その他通貨は1%の円高による年間影響額(億円)				
	EUR	¥156.66	¥163.00		¥163.00						
	その他通貨*2	100	102		101						
為替感応度*3 (億円)	USD		EUR	その他通貨 合計	年間為替影響額 見込み(億円)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第3四半期以降の 為替前提(円)</p> <table border="1"> <tr> <td>USD</td> <td>146.00</td> </tr> <tr> <td>EUR</td> <td>161.00</td> </tr> </table> </div>		USD	146.00	EUR	161.00
USD	146.00										
EUR	161.00										
売上収益	-29	-15	-48		+270						
事業利益	+9	-9	-27		+40						

- 続いて、2024年度の通期業績予想についてご説明します。
- 通期の売上収益は1兆3,400億円に修正しますが、事業利益は、各事業で費用抑制を継続することにより、850億円を据え置きます。
- 第2四半期の事業利益は社内計画を大幅に上回りましたが、下期にはプロジェクターなどの事業環境変化を織り込むとともに、SOHO・ホームIJP本体の販売価格対応をリスクとして織り込んだことなどにより、今回、下期の事業利益予想を引き下げました。
- 当期利益は、為替前提を円高に見直し為替差損益の予想を変更したことなどにより、470億円を予想します。
- なお、Fieryの買収影響は、クローリングに向けた手続きが進行中であるため、今回の業績予想には含みません。

■ 対前回予想

- 販売数量は、オフィス・ホームIJPは前回予想を据え置が、主にプロジェクターで事業環境変化を織り込んだ結果、引き下げ
- 価格は、IJP本体が第2四半期は北米を除く多くの地域で想定より高値で推移したものの、競合動向を考慮し、主に北米で価格競争がさらに進むリスクを慎重に織り込む
- その他の費用は、費用削減・抑制を継続



- 事業利益の増減要因について、前回予想からの主な変化をご説明します。
- 年間の販売数量は、オフィス・ホームIJPは前回予想を据え置きますが、主にプロジェクターで事業環境変化を織り込んだ結果、引き下げました。
- 価格は、IJP本体の販売価格が第2四半期は北米を除く多くの地域で想定より高値で推移したものの、主に北米で価格競争がさらに進むリスクを慎重に織り込みました。
- その他の費用は、費用削減・抑制を継続します。

プリンティングソリューションズ	2023年度 実績	2024年度 7/31予想	2024年度 11/1予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対7/31予想
売上収益	9,186	9,590	9,470	+283	+3.1%	-120
セグメント利益	961	1,130	1,160	+198	+20.7%	+30
セグメント利益率	10.5%	11.8%	12.2%			

オフィス・ホームプリンティング	2023年度 実績	2024年度 7/31予想	2024年度 11/1予想	対前期 増減額	対前期 増減率	対7/31予想
売上収益	6,508	6,620	6,560	+51	+0.8%	-60
オフィス・ホームIJP(SOHO・ホームIJP) ^{*1}	5,084	5,100	5,040	-44	-0.9%	-60
オフィス・ホームIJP(オフィス共有IJP) ^{*2}	718	860	860	+141	+19.6%	-
その他 ^{*3}	705	660	660	-45	-6.4%	-
事業利益	536	560	580	+43	+8.1%	+20
事業利益率	8.2%	8.5%	8.8%			

*1:I/Cモデル・大容量インクタンクモデル本体、インクなど *2:オフィス向けI/Cモデル・RIPS-LIJ本体、インクなど *3:スキャナー、SIDM、LP、部材オフィス製機など

商業・産業プリンティング	2023年度 実績	2024年度 7/31予想	2024年度 11/1予想	対前期 増減額	対前期 増減率	対7/31予想
売上収益	2,679	2,970	2,910	+230	+8.6%	-60
商業・産業IJP	1,930	2,190	2,130	+199	+10.3%	-60
小型プリンター他	748	780	780	+31	+4.2%	-
事業利益	424	570	580	+155	+36.7%	+10
事業利益率	15.8%	19.2%	19.9%			

■ オフィス・ホームプリンティング

- 主に円高影響により売上収益を下方修正、費用削減効果などにより事業利益は上方修正

◆ 販売動向 (社内管理値に基づく指標)	FY23 実績	FY24 7/31予想	FY24 11/1予想	
オフィス・ホームIJP 本体販売数量	伸長率 約、万台	-9%	+3%	+3%
内 SOHO・ホーム向け 大容量インクタンクモデル	1,200	1,265	1,265	
内 SOHO・ホーム向け I/Cモデル	325	300	300	
内 オフィス共有IJP	30	35	35	
オフィス・ホームIJP インク売上収益伸長率	(円貨) (現地通貨)	+6%	+0%	+1%
		-0%		

■ 商業・産業プリンティング

- 主に円高影響により売上収益を下方修正、費用削減効果などにより事業利益は上方修正

- 次に、事業セグメント別にご説明します。
- プリンティングソリューションズは、
オフィス・ホームプリンティング、商業・産業プリンティングともに、
主に円高影響により売上収益を下方修正するものの、
費用削減効果などにより事業利益は上方修正します。
- なお、オフィス・ホームIJPの年間販売台数は1,600万台を据え置きます。

ビジュアルコミュニケーション	2023年度 実績	2024年度 7/31予想	2024年度 11/1予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対7/31予想
売上収益	2,174	2,270	2,080	-94	-4.4%	-190
セグメント利益	315	370	290	-25	-8.2%	-80
セグメント利益率	14.5%	16.3%	13.9%			

■ ビジュアルコミュニケーション
 ・欧米を中心とした低調な教育需要や中国の景気停滞影響などを反映し、販売数量を引き下げることに加え、円高影響により、売上収益、セグメント利益ともに下方修正

◆プロジェクター販売動向* (前年同期比伸長率)	2023年度 実績	2024年度 7/31予想	2024年度 11/1予想
販売台数(約、万台)	180	175	165
伸長率	-5%	-1%	-7%

*社内管理値に基づく指標
伸長率は前年同期比

マニュファクチャリング関連・ ウェアラブル	2023年度 実績	2024年度 7/31予想	2024年度 11/1予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対7/31予想
売上収益	1,799	1,850	1,850	+50	+2.8%	-
マニュファクチャリングソリューションズ	247	240	240	-7	-3.1%	-
ウェアラブル機器	347	370	370	+22	+6.5%	-
マイクロデバイス他	1,043	1,050	1,050	+6	+0.6%	-
PC	196	230	230	+33	+17.1%	-
事業間売上収益	-35	-40	-40	-4	-	-
セグメント利益	-15	0	0	+15	-	-
セグメント利益率	-0.9%	0.0%	0.0%			

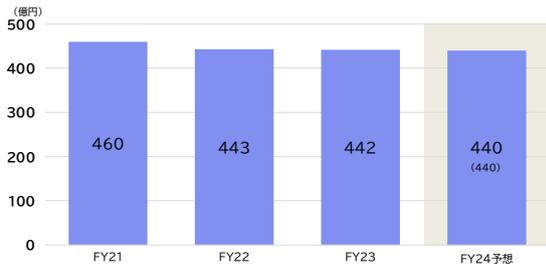
■ マニュファクチャリング関連・ウェアラブル
 ・マニュファクチャリングソリューションズの費用削減効果などを見込む
 ・マイクロデバイスは円高により利益のマイナス影響を受ける。市場回復は2025年度以降を想定

*マニュファクチャリングソリューションズに含まれていた小型射出成形機ビジネス等(金額は軽微)をFY24Q3から「全社費用・その他」で計上(FY23実績、7/31予想は本変更前の値)

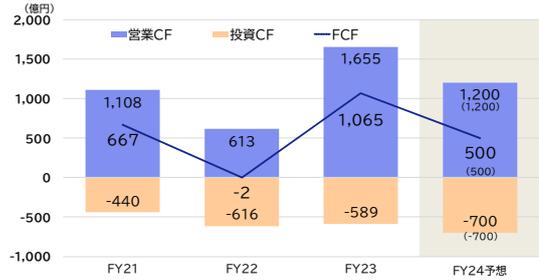
- ビジュアルコミュニケーションは、欧米を中心とした低調な教育需要や中国の景気停滞影響などを反映し、販売数量を引き下げることに加え、円高影響により、売上収益、セグメント利益ともに下方修正します。
- マニュファクチャリング関連・ウェアラブルは、売上収益、セグメント利益ともに前回予想値を据え置きます。
- なお、円高によりマイクロデバイスで利益のマイナス影響を受けるものの、マニュファクチャリングソリューションズの費用削減効果などを見込みます。

2024年度 通期業績予想 | 主要費用、フリー・キャッシュ・フロー、経営指標 EPSON

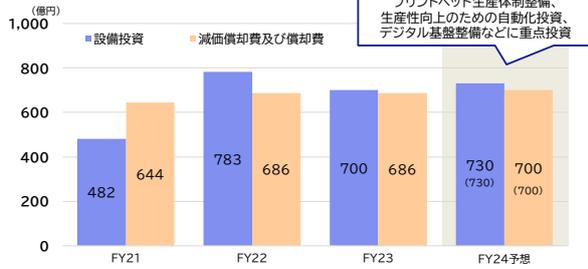
研究開発費



フリー・キャッシュ・フロー



設備投資・減価償却費及び償却費



主要経営指標	FY21 実績	FY22 実績	FY23 実績	FY24 予想	FY25 中期目標(新)
為替レート:USD/円	112.37	135.44	144.44	149.00	-
為替レート:EUR/円	130.55	140.90	156.66	163.00	-
売上収益 (億円)	11,289	13,303	13,139	13,400	-
事業利益 (億円)	896	951	647	850	-
親会社の所有者に帰属する当期利益 (億円)	922	750	526	470	-
ROS ^{*1}	7.9	7.1	4.9	6.3%	7%以上
ROA ^{*2}	7.4	7.3	4.7	6.1%	-
ROE ^{*3}	15.2	10.8	6.8	5.9%	8%以上
ROIC ^{*4}	7.3	7.1	4.6	6.0%	7%以上

*1 売上収益事業利益率=事業利益/売上収益
 *2 資産合計事業利益率=事業利益/期首・期末資産合計平均
 *3 親会社所有者帰属持分当期利益率=親会社の所有者に帰属する当期利益/期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均
 *4 投下資本利益率=税引後事業利益/(親会社の所有者に帰属する持分+有利子負債)
 税引後事業利益は、事業利益から実効税率相当額を控除した金額
 親会社の所有者に帰属する持分および有利子負債は期首・期末平均

© Seiko Epson Corporation 2024.

14

- 研究開発費、設備投資、減価償却費、フリー・キャッシュ・フローに変更はありません。
- 主要経営指標はご覧のとおりです。
- 今回の通期予想では、主に為替前提を見直したことによる変動があります。

- 厳しい外部環境が続くことを前提に、グローバルでのコスト削減活動を継続
 - 海外販売会社を中心に人員削減、より効率的な運営体制の実現に向け整備

- マニュファクチャリングソリューションズ事業のオペレーション改革に着手
同時に顧客対応力・コスト競争力を高め、成長局面へ備える
 - 開発・生産・販売体制を見直し、効率化および費用削減を推進
 - ターゲットを絞り込み、お客様に最適なソリューションを提供

- 4月末の決算発表で、収益性改善に向けた取り組みについてお伝えしました。
- その進捗についてご説明します。

- エプソンは、当面は厳しい外部環境が続くという前提に立ち、グローバルにコスト削減活動を継続しています。
- 特に、海外の販売会社においては人員削減を進め、より効率的な運営体制を整えています。

- マニュファクチャリングソリューションズ事業は、将来的な成長が期待される分野ですが、現在は厳しい状況にあります。
- 世界経済の減速により顧客の投資が抑制されていることや、中国メーカーの台頭が影響を及ぼしています。
- このような環境を踏まえ、エプソンはオペレーション改革に着手しています。
- 開発・生産・販売体制を見直し、効率化および費用の削減を図っています。
- 今後は、ターゲットを絞り込み、お客様に最適なソリューションを提供することで、顧客対応力・コスト競争力を高め、成長局面に備えていきます。

■ 配当

- 2024年度の1株当たり年間配当は74円を予想
 - ✓ 中期的には連結配当性向*40%程度を目標に、安定的な配当を継続

■ 自己株式取得

- 2024年度に300億円を上限とする自己株式取得を実施中
(取得期間:2024年7月18日~2025年3月31日)
 - ✓ 2024年9月末の進捗状況:39.66%(金額ベース)
 - ✓ 取得する自己株式は、全株式を消却する方針



* 事業利益から法定実効税率相当額を控除した額を元に算出

- 株主還元についてご説明します。
- 当期の1株当たり年間配当は、予想に変更はなく 74円です。
- また、4月に発表した 300億円を上限とする自己株式取得を、予定どおり 7月から開始し、9月末までに上限の約40%を取得しています。
- なお、取得する自己株式は、全株式を消却する方針です。
- 今後も、安定的かつ積極的な株主還元を実施していきます。
- 以上が決算のご説明になります。

- 第2四半期実績
- 2024年度通期業績予想・株主還元
- **Fiery買収**

■ Fiery買収

- 本買収およびFieryの概要
- Epson 25 Renewed 成長戦略の実現へ向けて
- 統合による効果
- 財務インパクト
- シナジーの確実な発現に向けて

➤ ここから、9月に発表しましたFiery買収についてご説明します。

対象会社	Fiery, LLC
取得方法	持分100%の取得
取得価額	約845億円 2024年9月17日時点の為替レート(1米ドル140.59円)
取得資金調達	手元資金と有利子負債による調達を組み合わせ実施 増資は実施しない
スケジュール	9月19日 契約締結 2024年中 全持分譲渡実行・完全子会社化予定

- はじめに、9月に契約を締結しましたFiery買収の概要について、改めてご説明します。
- 2024年中にFieryの持ち分を約845億円で100%取得し、完全子会社化する予定です。
- なお、取得資金は手元資金と有利子負債を組み合わせる予定で、増資による調達は行いません。

会社名	Fiery, LLC
代表者	CEO, Toby Weiss
事業内容	デジタル印刷ソフトウェアソリューション ・デジタルフロントエンド(DFE) ・印刷ワークフロー制御・管理
沿革	1991年 Electronics for Imaging (EFI)の Fiery事業として創業 2021年 EFIより会社分割して会社設立
本社	Fremont, CA USA
拠点	米国、インド、カナダ、オランダ、ドイツ、イギリス、日本
従業員数	788名（主に米国、インド）



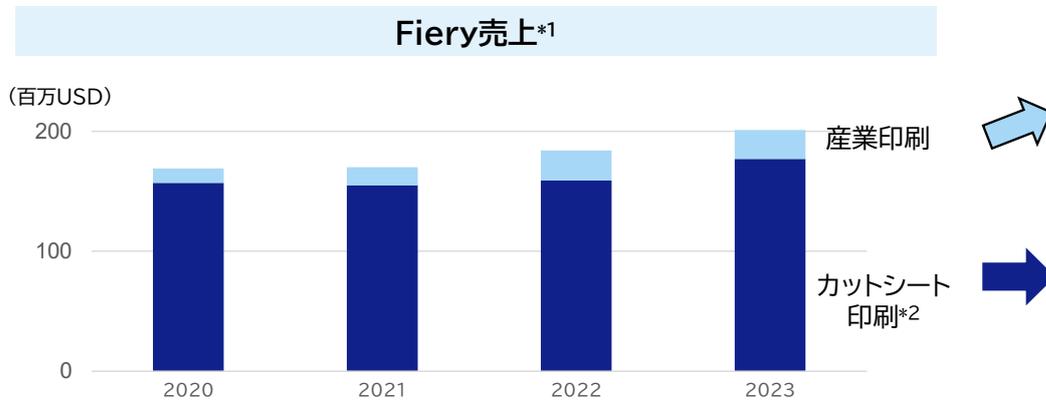
サーバー・ソフトウェア



クラウドソリューション

- Fieryの会社概要についてご説明します。
- 現在のCEOは、Toby Weiss氏です。
- 彼はこれまで顧客との信頼関係を構築してきており、買収後は引き続きその重責を担ってもらう予定です。
- Fieryは、デジタルフロントエンドや印刷ワークフロー管理など、商業・産業分野のデジタル印刷に欠かせないソフトウェアソリューションを提供しています。
- 本社はアメリカのシリコンバレーにあり、次に大きい拠点はインドにあります。
- 従業員の多くがこの2拠点に在籍し、ソフトウェア開発を担当しています。

- カットシート印刷については、今後も安定的な収益を見込む
- 産業印刷は印刷量が桁違いに多い一方で、未だアナログ印刷が主流のため、デジタル化進展により大きな成長が見込める



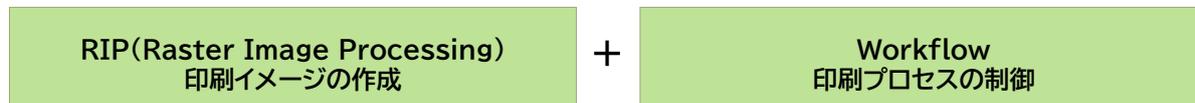
*1 2020,2021年はEFIのFiery事業売上

*2 カットシート: A4用紙など定型に1枚ごと切り離されている用紙

- こちらはFieryの売上推移です。
- Fieryは、これまでカットシート印刷の分野を中心に事業を行っており、この分野は、今後も引き続き安定的な収益基盤として捉えています。
- 産業印刷では、市場の大部分がいまだアナログ印刷が主流であり、デジタル化を進展させることにより、大きな成長ができると期待しています。

- 商業・産業領域での印刷プロセスで中核を担う機能であるデジタルフロントエンド (DFE)を中心としたソリューションビジネスを展開
- 特にカットシート市場で、Fieryは長年にわたりマーケットリーダー

Digital Front End(DFE)

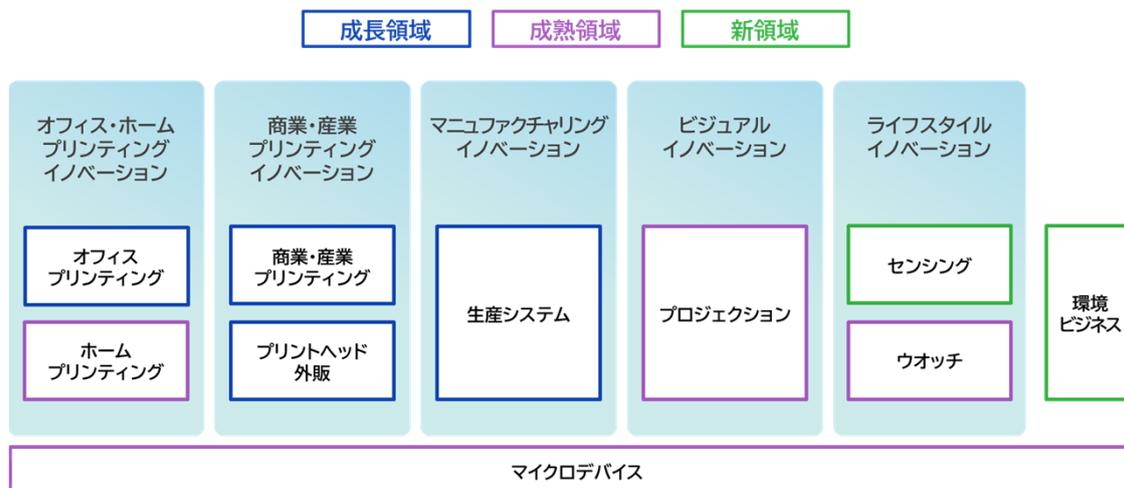


事業領域



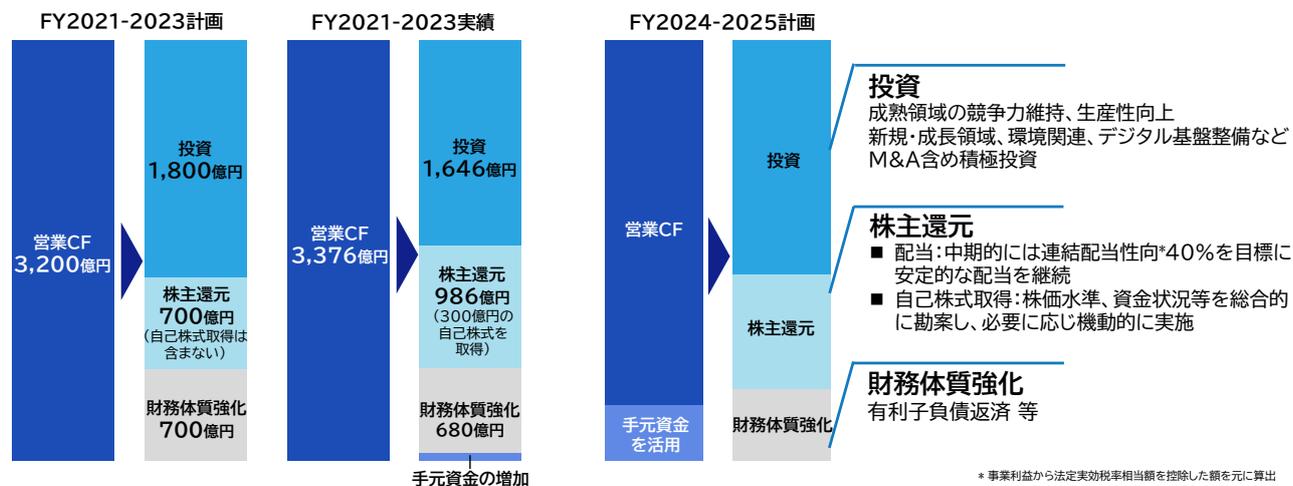
- 次にビジネス概要についてご説明します。
- デジタルフロントエンドとは、印刷イメージの処理であるRIPや、受注から印刷前後の処理、印刷機やプリンターへの出力、納品までのワークフロー制御を提供する、ソフトウェアソリューションです。
- Fieryは、このデジタルフロントエンド・ソリューションを事業領域としており、特にカットシート市場では長年にわたりマーケットリーダーとなっています。
- カタログ、パンフレット、ハガキなど単票のカットシート印刷では、月産100万枚程度までの大型印刷機を持つお客様をターゲットとしています。
- 産業印刷では、段ボールなどのパッケージや、テキスタイル、装飾、サインなどの印刷を行うお客様がターゲットとなります。

- 5つのイノベーション領域を設定
- 「成長領域」「成熟領域」「新領域」を設定し、収益性の向上と将来成長を目指す

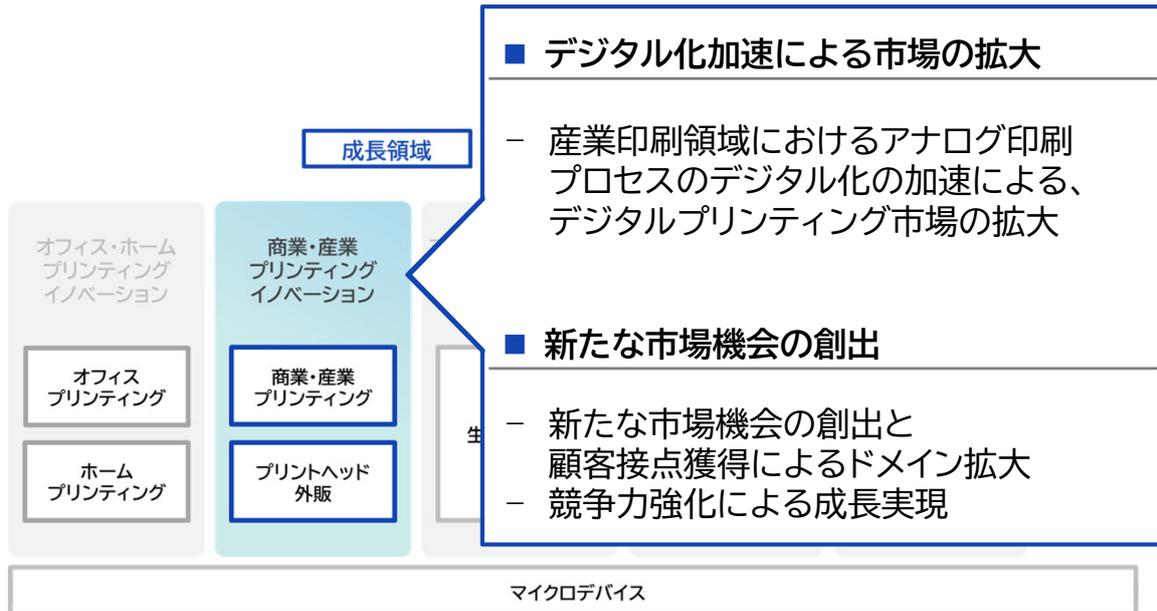


- さて、こちらは2021年に発表した長期ビジョン
Epson 25 Renewedでお示した、5つのイノベーション領域です。
- 経営資源を投下する「成長領域」、収益性を重視する「成熟領域」、
そして「新規領域」を設定し、収益性の向上と将来成長を目指しています。

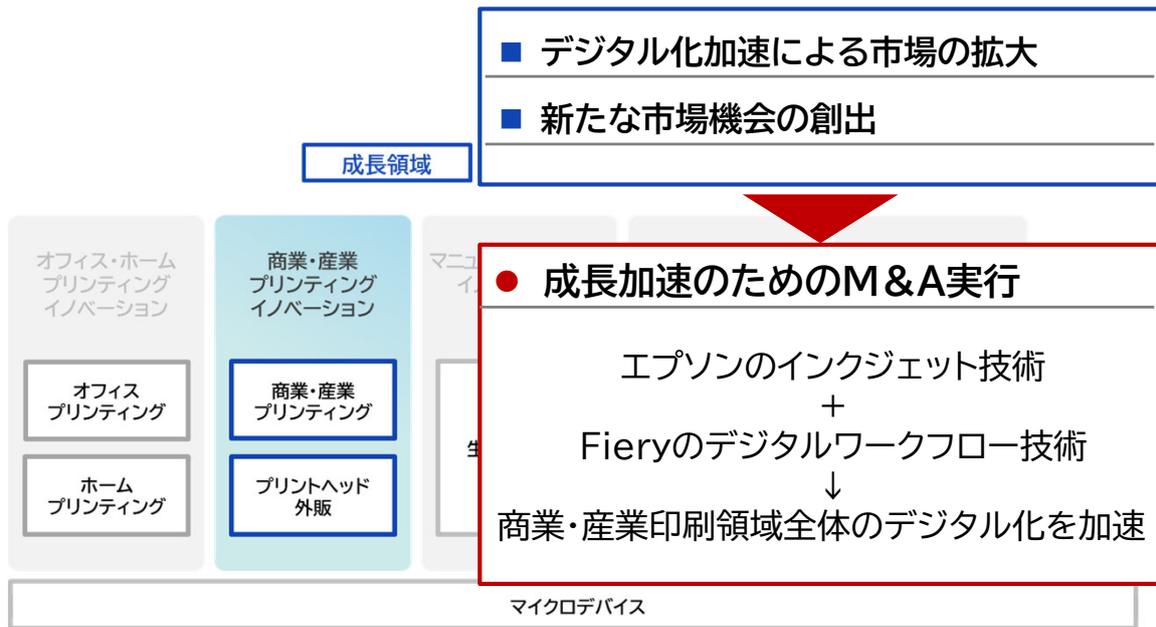
- 2021年度-2023年度は、成長戦略に基づく投資を実施
- 24年度以降も成熟領域の競争力維持・生産性向上に加え、成長領域・環境関連・デジタル基盤整備へ、M&Aを含めて積極投資



- こちらは、2024年4月にお示したキャッシュ・アロケーションの実績と計画です。
- 2021年度から2023年度まで、1,646億円の投資をしてきました。
- 2024年度以降も、引き続き、成熟領域の競争力維持と生産性向上に加えて、成長領域、環境関連、デジタル基盤整備など、M&Aを含めて積極的な投資を行っていきます。

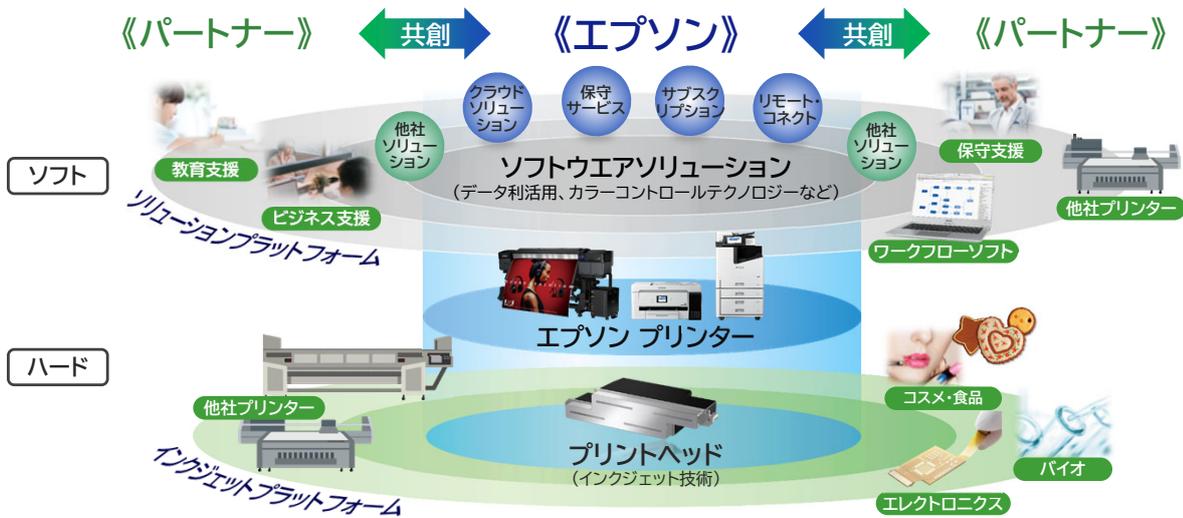


- 今回の買収は、成長領域の一つである「商業・産業プリンティングイノベーション」領域の戦略実行に関するものです。
- この領域での成長の方向性は、二つあります。
- 一つ目は、「デジタル化加速による市場の拡大」です。
- 産業印刷領域におけるアナログ印刷プロセスのデジタル化は、インクジェットとの親和性が高いと考えており、これまで完成品とプリントヘッドでお客様の価値の実現に取り組んできました。
- 今後印刷プロセスのデジタル化・インクジェット化のさらなる加速が、デジタルプリンティング市場の拡大につながると考えています。
- 二つ目は、「新たな市場機会の創出」です。
- 今後、デジタル化が加速し市場が拡大する産業印刷領域で、新たな市場機会の創出と顧客接点の獲得によるドメインを拡大します。また、新しいお客様への価値のご提案を通じてエプソンの競争力を強化しながら、成長実現を図っていきます。



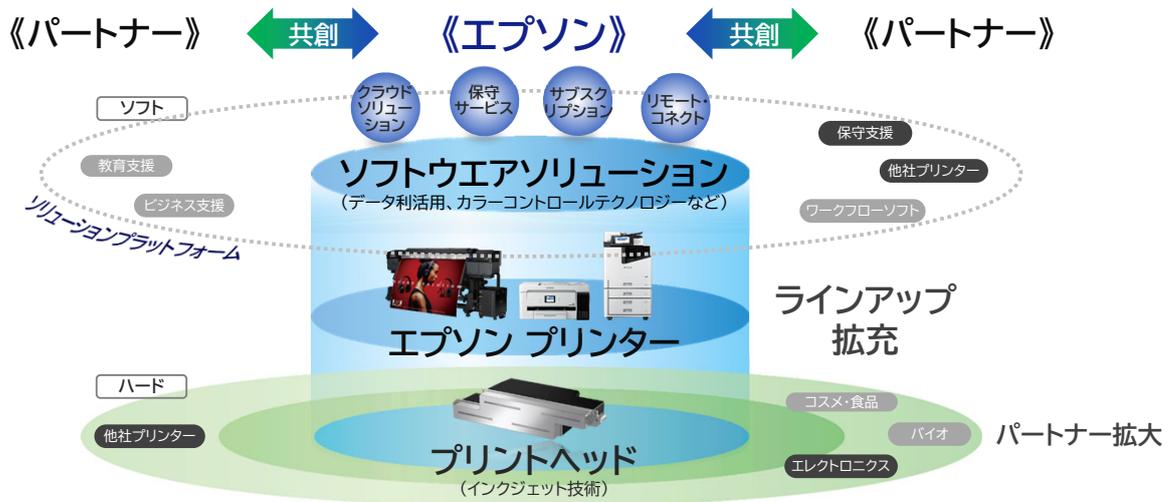
- これまでエプソンは、成長戦略実現を加速するために、得意とするプリンターやプリントヘッドといったハードウェアを中心としたインクジェット技術を磨いてきました。
- 印刷データのインプットからアウトプットまでのプロセス全体のデジタル化には、エプソンに不足していたシステムソリューションといったソフトウェアプラットフォームの技術を獲得することによって、新たな価値創出が必要と判断し、Fierlyを買収することとしました。

独創のインクジェット技術をコアに、ハード・ソフト二つのプラットフォームを構築、パートナーと共に新たな価値を創出・提供し続ける



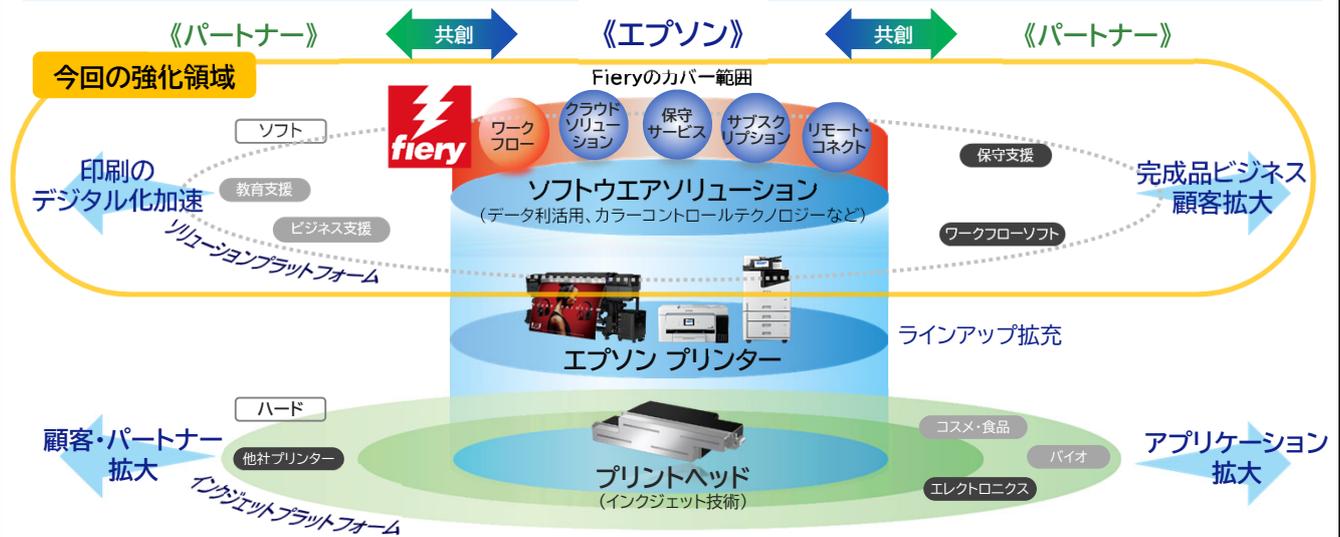
- こちらはEpson 25 Renewedでお示した、オフィス・ホーム領域、商業・産業領域を合わせた、プリンティングイノベーションのエコシステムの考え方です。
- プリンティングの領域では、独創のインクジェット技術をコアに、ハード・ソフト二つのプラットフォームを構築し、パートナーと共に、新たな価値を創出・提供し続けていきます。

独創のインクジェット技術をコアに、ハード・ソフト二つのプラットフォームを構築、パートナーと共に新たな価値を創出・提供し続ける



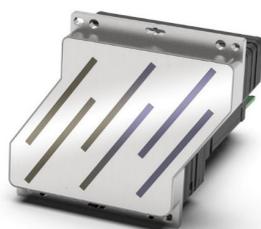
- エプソンは、マイクロピエゾプリントヘッドをコアに、インク、制御システム、画像処理、精密加工や生産技術などの基盤技術を磨き上げ、インクジェットプラットフォームを創り上げてきました。
- このプラットフォームのプリントヘッドを活用するパートナーを拡大することで、インクジェットの価値を高めてきました。
- また、エプソンのプリンター完成品は、コアの技術をベースに、ホーム・オフィスから商業・産業領域までラインアップを拡充してきました。
- 一方で、ソフトウェアソリューションは、自社プリンターへの対応を中心に揃いつつありますが、「ソフトウェアプラットフォーム」としての価値創出には至っていませんでした。

独創のインクジェット技術をコアに、ハード・ソフト二つのプラットフォームを構築、パートナーと共に新たな価値を創出・提供し続ける



- 今回のFieryとの統合は、カラーコントロールテクノロジーやワークフローソフトウェアの領域を補完し、ソフトウェアソリューションの価値を大幅に高めるものです。
- これを、エプソンのプリントヘッド、完成品それぞれと組み合わせることで、お客様への提案力を強化していきます。
- 具体的には、次ページ以降でご説明します。

インクジェットプリントヘッドとDFEの組み合わせによる産業印刷市場のデジタル化加速



エプソンのインクジェット技術と
高画質・使いやすさを実現する
Fieryのソフトウェア技術の融合

- エプソンのインクジェットヘッドとFieryのDFEを組み合わせ、色再現性が高く高画質で使いやすいソリューションを実現
- 最適化した産業印刷市場向けのソリューションを構成し、お客様へ提供

- プリンティングイノベーションの実現に貢献する、統合による三つの効果をご説明します。
- 一つ目は、エプソンの高画質なインクジェット技術と、Fieryの高画質・高生産DFEの組み合わせによる効果です。
- 産業印刷市場向けに最適化した、色再現性を含めた高画質で使いやすいソリューションを実現し、他のプリンターメーカーなどのパートナーに提供することができます。
- これにより、印刷会社やプリンターメーカーがデジタル印刷を導入しやすくなります。
- その結果、産業印刷のデジタル化が促され、市場が拡大することになります。

Fieryの優れたワークフローに商業・産業プリンター完成品を適合させ、より高度な顧客価値を実現



Fieryのワークフロープラットフォームに
商業・産業IJP完成品を
最適化された状態で適合

- デジタル化を検討するお客様に対し、Fieryのワークフローを含めたソリューションを提案
- Fieryを導入済みの印刷業などのお客様に対し、エプソン商品・サービスを提案することにより顧客層を拡大(クロスセルと機会の拡大)

- 二つ目をご説明します。
- Fieryの優れたワークフローに、エプソンの商業・産業プリンターを適合させ、生産性向上などにより高度な顧客価値を実現します。
- これにより、デジタル化を検討するお客様に対しては、エプソンのプリンターとFieryのワークフローを含めたソリューションを提案できるようになります。
- また、既にFieryを導入しているお客様にとっては、エプソンのプリンター導入のハードルが下がることとなります。
- 一方で、エプソンのお客様に対しても、Fiery製品を提案するなど、クロスセルが可能となるため、多くのお客様へ価値を届けることができるようになります。

Fieryがソフトウェア開発において蓄積した知見、優れた人材ポートフォリオを活用



ソフトウェアを軸とした新たな顧客価値の創出

- Fieryの持つソフトウェアサービス・プラットフォームを活用した新たな顧客価値の創出と提案

開発基盤を強化

- Fieryの先端ソフトウェア開発能力、ソフトウェアプロダクト開発体制の知見・能力を活用し開発基盤を強化

- 三つ目として、Fieryがソフトウェア開発で蓄積した知見に加え、優れた人材ポートフォリオを活用することでも、新たな価値を生み出します。
- これにより、Fieryのソフトウェアサービスやプラットフォームを活用した、プリンティングの新たな価値の提案が可能となります。
- また、Fieryは最先端のプロセスでソフトウェア開発を行っており、これらのプロダクト開発体制における知見や能力を活用して、エプソンの組織基盤を強化することを狙います。

Fieryの高品質・高信頼性の
製品・サービスを提供し続けるため、
買収後も既存顧客に対して
従来同様に事業を継続

- なおFieryは、これまで高品質・高信頼性の製品やサービスを、プリンターメーカーなどに提供し、成長してきました。
- 買収後も、既存顧客の情報管理を徹底し、独立した事業運営を継続します。

<p>損益</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 現時点での想定では、売上・利益は2024年度からプラスに寄与する見通し • 公表すべき事項が生じた場合には速やかに開示
<p>キャッシュ・アロケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 買収資金を手元資金および有利子負債で調達、自己資本比率は若干低下するものの、財務安全性や資金調達余力に大きな影響なし • 積極投資方針(成熟領域の競争力維持、生産性向上、新規・成長領域、環境関連、デジタル基盤整備など)に変更なし • 株主還元方針に変更なし

- 本買収による財務インパクトについては、クロージングに向けて検討や確認を進めているところですが、現時点での考え方についてご説明します。
- 損益については、2024年度から売上、利益ともにプラスに寄与する見通しです。
- 今後、公表すべき事項が生じた場合は、速やかに開示します。
- キャッシュアロケーションについては、買収資金を手元資金および有利子負債で調達する予定です。
- 自己資本比率は若干低下する見込みですが、財務安全性や資金調達余力に大きな影響はありません。
- なお、投資方針や株主還元方針については従来より変更はありません。

■ PMI | Fiery従業員とのエンゲージメント

9月19日 Fiery従業員へのビデオメッセージ



11月中旬
Fieryタウンホールミーティング
実施予定

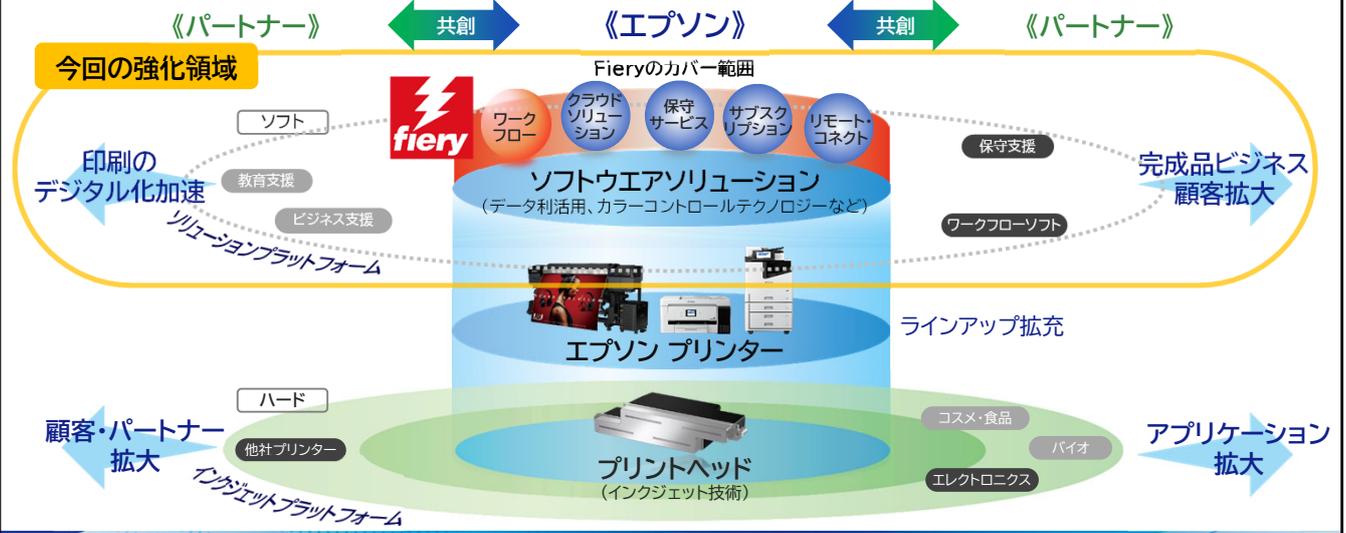
現地従業員・マネジメント層との
エンゲージメント

■ PMI | 実行プロセス

- PMI専任チームにより、統合計画と実行に向けた取り組みが順調に進展
- Fieryマネジメント・従業員も統合にポジティブ

- 現在、競争法の届け出を完了し、12月のクロージングに向けて準備を進めているところです。
- それより前に、譲渡契約締結の当日には、私からFiery従業員に向けたビデオメッセージをお送りしました。
- また、11月中旬には、私を含めた今回の案件を推進した経営陣とともに現地に赴き、従業員との対話を通して、直接本件に関するエプソンの思いなどをお伝えする予定です。
- また、エプソングループの仲間として活動を円滑に開始するために、PMIに関するプロジェクトチームを編成し、Fieryと密にコミュニケーションを取りながら対応を進めています。

独創のインクジェット技術をコアに、ハード・ソフト二つのプラットフォームを構築、パートナーと共に新たな価値を創出・提供し続ける



- エプソンは今後も独創のインクジェット技術をコアに、ハード・ソフト二つのプラットフォームを構築・強化し、パートナーとともに、今後も新たな価値を創出・提供し続けてまいります。

EPSON

補足資料

	2023年度		2024年度		対前年同期		
	(億円)	Q2累計実績	%	Q2累計実績	%	増減額	増減率
売上収益		6,385		6,741		+356	+5.6%
事業利益		244	3.8%	510	7.6%	+266	+108.9%
営業利益		279	4.4%	349	5.2%	+70	+25.1%
税引前利益		383	6.0%	328	4.9%	-55	-14.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		274	4.3%	232	3.5%	-41	-15.3%
EPS*1(円)		82.88		70.43			
為替レート (円、指数)	USD	¥140.83		¥152.51			
	EUR	¥153.30		¥165.80			
	その他通貨*2	100		107			

為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	総計
売上収益	+162	+81	+110	+354
事業利益	-51	+51	+75	+74

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
 *2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前年同期を100とした指数

2024年度 第2四半期累計実績 | プリンティングソリューションズ EPSON

(億円)

プリンティングソリューションズ	2023年度 Q2累計	2024年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	4,373	4,765	+392	+248	+9.0%
セグメント利益	373	635	+261	+46	+69.9%
セグメント利益率	8.5%	13.3%			

オフィス・ホームプリンティング	2023年度 Q2累計	2024年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	3,067	3,287	+220	+162	+7.2%
オフィス・ホームIJP(SOHO・ホームIJP) ^{*1}	2,363	2,558	+194		+8.2%
オフィス・ホームIJP(オフィス共有IJP) ^{*2}	347	397	+49		+14.4%
その他 ^{*3}	356	332	-24		-6.8%
事業利益	188	287	+98	+3	+52.1%
事業利益率	6.2%	8.7%			

*1: i/Cモデル、大容量インクタンクモデル本体、インクなど *2: i/Cモデル、RIPS・LJ本体、インクなど *3: スキャナー、SIDM、LP、脱式オフィス製紙機など

商業・産業プリンティング	2023年度 Q2累計	2024年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	1,306	1,478	+172	+86	+13.2%
商業・産業IJP	941	1,083	+142		+15.1%
小型プリンター他	364	394	+29		+8.1%
事業利益	184	347	+162	+43	+88.2%
事業利益率	14.1%	23.5%			

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2023年度 Q2累計	2024年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	1,102	1,080	-21	+70	-2.0%
セグメント利益	146	159	+12	+23	+8.8%
セグメント利益率	13.3%	14.8%			

(億円)

マニュファクチャリング関連 ・ウェアラブル	2023年度 Q2累計	2024年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	926	899	-26	+38	-2.9%
マニュファクチャリングソリューションズ	125	112	-13		-10.9%
ウェアラブル機器	179	202	+22		+12.7%
マイクロデバイス他	540	507	-32		-6.1%
PC	97	99	+1		+1.8%
事業間売上収益	-18	-22	-4		-
セグメント利益	17	-5	-23	+6	-
セグメント利益率	1.9%	-0.6%			

主要製品の販売動向

			FY2023 Q1実績	FY2023 Q2実績	FY2023 Q3実績	FY2023 Q4実績	FY2023 通期 実績	FY2024 Q1実績	FY2024 Q2実績	FY2024 通期 予想	
*社内管理値に基づく指標 伸長率は前年同期比			USD EUR	137.18 149.40	144.47 157.20	147.78 158.98	148.31 161.07	144.44 156.66	155.79 167.74	149.23 163.86	149.00 163.00
オフィス・ホーム プリンティング	オフィス・ホーム IJP 本体	売上収益(円貨)	伸長率	+1%	+3%	-4%	-13%	-4%	+11%	+10%	+2%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	-3%	-2%	-9%	-21%	-10%	+1%	+9%	
		本体数量	伸長率	-7%	-0%	-7%	-19%	-9%	+7%	+11%	+3%
		本体数量	万台					約1,555			約1,600
		内 SOHO・ホーム向け大容量インクタンクモデル	万台					約1,200			約1,265
		内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	万台					約325			約300
		内 オフィス共有IJP	万台					約30			約35
	オフィス・ホーム IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比					38%			38%
		売上収益(円貨)	伸長率	+9%	+5%	+6%	+3%	+6%	+8%	+7%	+1%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	+5%	-1%	+1%	-6%	-0%	-1%	+5%	
ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益(円貨)	伸長率	+17%	-10%	-2%	+1%	+0%	+5%	-8%	-4%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	+12%	-15%	-7%	-9%	-6%	-6%	-10%	
		本体数量	伸長率	+4%	-10%	-5%	-8%	-5%	-8%	-10%	-7%
		本体数量	万台					約180			約165

財務データ(2023年度・2024年度)

EPSON

		(億円)									
		FY2023	FY2023	FY2023	FY2023	FY2023	FY2024	FY2024	FY2024	FY2024	FY2024
		Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期
		実績									
為替レート (円)	USD	137.18	144.47	147.78	148.31	144.44	155.79	149.23			149.00
	EUR	149.40	157.20	158.98	161.07	156.66	167.74	163.86			163.00
プリンティングソリューションズ		売上収益	2,151	2,221	2,510	2,302	9,186	2,359	2,406		9,470
	セグメント利益	223	150	369	217	961	296	339			1,160
	売上収益	1,498	1,569	1,819	1,621	6,508	1,610	1,677			6,560
	事業利益	126	62	237	109	536	132	154			580
	売上収益	653	652	691	681	2,679	748	729			2,910
	事業利益	97	87	131	107	424	163	184			580
ビジュアルコミュニケーション		売上収益	529	573	590	481	2,174	556	523		2,080
	セグメント利益	67	79	97	71	315	77	81			290
マニファクチャリング関連・ウェアラブル		売上収益	473	452	439	433	1,799	453	446		1,850
	セグメント利益	7	10	-15	-18	-15	-3	-2			0
全社費用・その他、調整額		売上収益	-5	-10	-5	1	-20	-3	-0		0
	セグメント利益	-143	-151	-153	-166	-614	-135	-143			-600
連結合計		売上収益	3,148	3,236	3,535	3,218	13,139	3,366	3,375		13,400
	事業利益	155	88	298	103	647	234	275			850
	ROS	5.0%	2.7%	8.5%	3.2%	4.9%	7.0%	8.2%			6.3%
研究開発費		109	116	109	106	442	107	100			440
設備投資	プリンティングソリューションズ	67	64	167	142	441	91	99			440
	ビジュアルコミュニケーション	12	9	20	18	60	11	23			80
	マニファクチャリング関連・ウェアラブル	16	22	34	49	123	13	25			140
	全社費用・その他	9	20	19	26	75	11	19			70
減価償却費 及び償却費	プリンティングソリューションズ	103	103	105	106	418	109	106			440
	ビジュアルコミュニケーション	24	24	23	22	94	23	22			100
	マニファクチャリング関連・ウェアラブル	25	25	26	26	103	27	27			100
	全社費用・その他	17	17	17	17	69	16	16			60
営業CF		273	341	523	516	1,655	353	346			1,200
FCF		63	235	394	371	1,065	155	172			500

海外売上収益

為替レート(円)	USD	129.64	138.30	141.55	132.28	137.18	144.47	147.78	148.31	155.79	149.23
	EUR	138.11	139.28	144.23	141.97	149.40	157.20	158.98	161.07	167.74	163.86

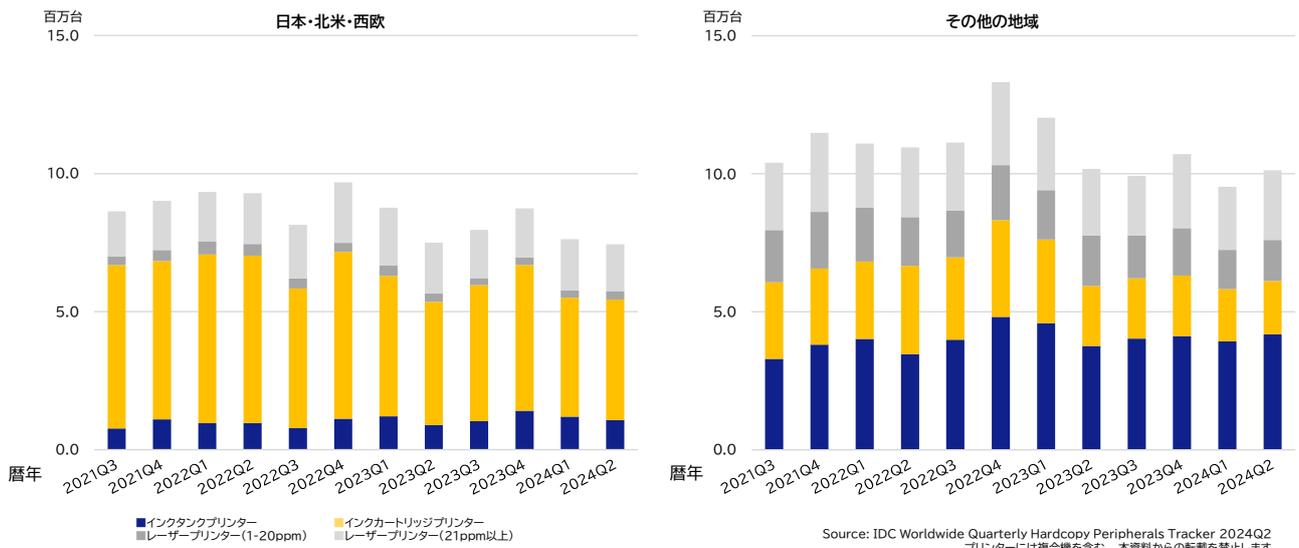
売上収益(億円)	FY22/Q1	FY22/Q2	FY22/Q3	FY22/Q4	FY23/Q1	FY23/Q2	FY23/Q3	FY23/Q4	FY24/Q1	FY24/Q2	対前年同期
米州	1,000	1,115	1,143	1,110	1,069	1,062	1,080	1,087	1,145	1,066	+3
欧州	573	683	785	780	621	708	842	721	679	747	+39
アジア・オセアニア	884	1,005	1,009	891	928	939	976	867	1,021	1,018	+78
海外売上収益計	2,457	2,804	2,938	2,782	2,619	2,710	2,898	2,677	2,846	2,832	+121
連結合計	2,978	3,352	3,612	3,359	3,148	3,236	3,535	3,218	3,366	3,375	+138

構成比	FY22/Q1	FY22/Q2	FY22/Q3	FY22/Q4	FY23/Q1	FY23/Q2	FY23/Q3	FY23/Q4	FY24/Q1	FY24/Q2
米州	33.6%	33.3%	31.6%	33.1%	34.0%	32.8%	30.6%	33.8%	34.0%	31.6%
欧州	19.2%	20.4%	21.8%	23.2%	19.7%	21.9%	23.8%	22.4%	20.2%	22.2%
アジア・オセアニア	29.7%	30.0%	27.9%	26.5%	29.5%	29.0%	27.6%	27.0%	30.3%	30.2%
海外売上収益計	82.5%	83.7%	81.3%	82.8%	83.2%	83.7%	82.0%	83.2%	84.6%	83.9%

従業員数

期末従業員数(人)	2022/6末	2022/9末	2022/12末	2023/3末	2023/6末	2023/9末	2023/12末	2024/3末	2024/6末	2024/9末	対前年同期
国内	20,128	20,131	20,174	20,124	20,633	20,535	20,323	20,209	20,702	20,672	+137
海外	59,887	62,742	64,308	59,782	57,932	55,764	54,649	54,255	56,969	57,889	+2,125
連結合計	80,015	82,873	84,482	79,906	78,565	76,299	74,972	74,464	77,671	78,561	+2,262

A4サイズプリンターのタイプ別市場推移



イノベーション	オフィス・ホーム プリンティング イノベーション	商業・産業 プリンティング イノベーション	ビジュアル イノベーション	マニュファクチャリング イノベーション	ライフスタイル イノベーション	
セグメント	プリンティングソリューションズ		ビジュアル コミュニケーション	マニュファクチャリング関連・ウェアラブル		
事業 ・ 主要製品	オフィス・ホームプリンティング オフィス・ホームIJP SOHO・ホーム 大容量インクタンクモデル インクカートリッジモデル オフィス共有 大容量インクパックモデル (RIPS) ラインインクジェット複合機 (LIJ) オフィス向けインクカートリッジモデル PaperLab SIDM スキャナー レーザープリンター	商業・産業プリンティング 商業・産業IJP 完成品ビジネス フォト コーポレート サイナー ラベルプリンター テキスタイル ラベル印刷機 プリントヘッド外販ビジネス IJプリントヘッド、インク 小型プリンター他 小型プリンター 小型ラベルプリンター	プロジェクター 高光束 超短焦点 スタンダード ホーム・スマート HMD 	マニュファクチャリングソリューションズ ロボット スカラ 6種 オプション 	ウェアラブル機器 Orient Star Orient ムーブメント セイコービジネス 	マイクロデバイス他 マイクロデバイス 水晶デバイス 半導体 エプソンダイレクトPC 微細合金粉末 表面処理加工

ESG
インデックス
組み入れ・
格付け

- FTSE4Good Index Series
- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
- MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)
- S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数
- Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index
- SOMPOサステナビリティ・インデックス
- ISS ESGのESG コーポレートレーティング評価「ブライム」
- CDP企業調査2023「Aリスト」企業 (分野:気候変動、水セキュリティ)
- EcoVadis社のサステナビリティ評価「プラチナ」
- 日本政策投資銀行(DBJ)環境格付け融資「ランクA」
- MSCI ESG レーティング「AAA」
- 海外主力工場でRBA*1監査の最高位プラチナ認証取得(インドネシア、フィリピン)
- 24回グリーン購入大賞「大賞・経済産業大臣賞」:2023年12月
- 2023年度省エネ大賞(製品・ビジネスモデル部門)「資源エネルギー庁長官賞」:2023年12月
- コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー®2023「Winner Company」:2024年1月
- 第5回ESGファイナンス・アワード・ジャパン(環境サステナブル企業部門)「環境大臣賞・銀賞」:2024年2月
- 健康経営銘柄2024*2 :2024年3月
- 日経225 :2017年から選定

GPIFが採用する
ESG国内指数6件全てに選定

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

S&P/JPX カーボン エフィシエント 指数

MORNINGSTAR GenDi J Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index TOP CONSTITUENT 2024

ESG
関連表彰・
銘柄選定
など

*1 The Responsible Business Alliance、世界最大級のCSR推進企業同盟
*2 健康経営の目的・体制 <https://corporate.epson/ja/sustainability/our-people/health-and-productivity.html>

投資家情報



- IRライブラリ <https://corporate.epson/ja/investors/publications/>
 - 経営・事業戦略説明会 <https://corporate.epson/ja/investors/publications/presentations.html>
 - 統合レポート <https://corporate.epson/ja/investors/publications/integrated-report.html>
- 5分で分かるエプソン <https://corporate.epson/ja/investors/overview/>
- 株主還元 <https://corporate.epson/ja/investors/information/stock-dividends.html>

- パーパス <https://corporate.epson/ja/philosophy/purpose/>
- 長期ビジョン <https://corporate.epson/ja/philosophy/vision/>

サステナビリティ



- サステナビリティ経営 <https://corporate.epson/ja/sustainability/initiatives/>
- 環境 <https://corporate.epson/ja/sustainability/environment/>
- 人材 <https://corporate.epson/ja/sustainability/our-people/>
- ESGデータ <https://corporate.epson/ja/sustainability/esg-data/>

I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター(複合機含む)
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル(RIPS)、高速ラインインクジェット(LIJ)の総称
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	製品カテゴリーの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル,RIPS,LIJを含む
商業・産業IJP完成品ビジネス	商業・産業用大判インクジェットプリンター本体・インク・サービスなどを含む
プリントヘッド外販ビジネス	プリントヘッド、インクなどを含む
Epson Connect	エプソンの製品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
分散印刷	同一内容の印刷データを複数のプリンターを用いて印刷する方法
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printer
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
スマートプロジェクター	500lm以上で、独立してネットワーク接続が可能かつ動画配信サービスなどが利用可能なプロジェクター
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

- 本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。なお、業績などに影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

- 事業利益は、売上収益から 売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しています。

■ 本説明資料における表示方法

- 数値:表示単位未満を切り捨て
- 比率:円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入
- 年度:断りが無い限り、会計年度を示す

EPSON